



世界最大規模のスーパーコンピュータの学会である Super Computing2011 (SC11) が2011年11月12日から18日の期間にて開催された。本学会は1988年のフロリダ州オーランド市での開催以降、毎年アメリカの諸都市で開催されている。主な参加者は情報科学および工学分野に属する研究者・教育者・企業関係者等で、その数は11,000人にも上る。24回目の本年はワシントン州シアトル市にある Washington State Convention Center をメイン会場として開催された。SCの主な構成は、国際学会としての講演(Technical Program)および企業や研究機関による展示(Exhibits)などである。本年は「HPC(High Performance Computing)を通じて社会をつなぐ」をテーマに航空、医療、モデリングシミュレーションの3分野が推進分野として挙げられ、各部門のスペシャリストによる講演が行われた。加えてNVIDIAの創設者の1人でCEOのJen-Hsun Huang氏による基調講演も行われた。一方、Exhibitsには大学・研究機関・企業あわせて333団体が個々のブースで活動内容を紹介した。

今回が10回目の参加となる東北大学流体科学研究所では、同金属材料研究所・同サイバーサイエンスセンターとの3機関合同で、研究展示とGCOEプログラムの紹介を行った。さらに本年5月より新たに導入した最新鋭のスパコンシステムに関する紹介も行った。本研究所のブースには、日本のみならず諸外国から約200名の参加者が来訪した。研究展示を通して最新の研究成果を紹介するとともに、スパコンに関する最新の動向や問題点について活発に議論することができた。このように国内外の研究機関および企業との情報交換や講演の聴講を同時に行う機会を得られたことは、今後の研究を進める上で非常に有意義であった。

